

志學館大学での 「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

〔開催概要〕

日時：平成23年10月26日（水）16：20～17：35

場所：志學館大学

※ 平成23年度 第5回目

平成23年12月
鹿児島市 市民協働課

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年10月26日（水）16：20～17：35
場所：志学館大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
1	3年 女子学生	① 市長が市民目線で、最近特に力を入れている取り組みは何か。	① 鹿児島市は、新幹線大交流時代を大きな柱として、新幹線の全線開業を大きな契機に、鹿児島市の発展のため、観光、環境、教育といった鹿児島ならではの魅力を発信していく取り組みを進めております。 また、今年は東日本大震災が発生いたしました。大変な災害で、多くの人命が失われ、現在も被災された方は大変な暮らしをしておられると思います。 この大震災から教訓として学ぶことは、人と人との絆や人と地域との連携・連帯がまちづくりの重要な柱であるということです。 現在、毎日桜島が爆発していますが、身近にある桜島の防災対策を市民の皆さんと一緒に進めていかなければなりません。 そのためには、行政がすること、企業の方がすること、個人がすること、我々はこれを公助、共助、自助と呼んでいます。私は、この3者で連携してまちを作っていきたいという強い信念を持っています。 また、現在策定中の第五次総合計画においても、一番の大きな柱に「協働」というものをおいて、まちづくりを進めているところです。	企画財政局 市民局	※市長回答のとおり
2	2年 女子学生	② 新幹線の全線開業で観光客は増えたが、ビジネス面ではストロー現象が起きて、支店や営業所が福岡に移り、鹿児島市民が職を失うということが起きているのではないかと。今後就職を控えているので、ぜひ教えてほしい。	② 今、新幹線全線開業に伴うプラス面、マイナス面を述べていただきました。 私どもも、当初、会社の支店等が福岡に移ってしまうのではないかと懸念していたのですが、現在のところ、顕著な現象は起きていないということです。 しかし、鹿児島から福岡まで最短1時間19分ということで、時間地図が大幅に変わってきておりますので、今後はそのようなことが起こることも、無きにしも非ずということですので。 今後は、そういうことを十分に踏まえて、県と一緒に企業誘致を行いたいと思いますが、利便性が図られることで、逆に鹿児島に進出したところもあると聞いております。 そういったところには、ぜひ鹿児島に定着していただいて、多くの方を雇用していただくようお願いをしているところです。 しかし、まだ雇用環境は大変厳しいので、これを課題と位置づけて、解決策を探る手立てを講じていきたいと考えております。	経済局	本市は、ソフトウェア業やコールセンター等を中心とした都市型産業や製造業の誘致促進に努めているところです。 18年度から22年度の過去5年間の業種別の立地件数は、情報関連企業11件、コールセンター5件、製造業4件、研究開発型企業2件の合計22件となっております。 今後におきましても、県とも連携を図りながら、企業立地を戦略的に推進し、雇用の創出に努めてまいります。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年10月26日（水）16：20～17：35
場所：志学館大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
3	4年 男子学生	③ 中国からの観光客についてどういう対策を取っているのか。	③ 鹿児島市は、今、国際観光都市と位置づけて、国際交流に積極的に取り組んでおります。 また、私自身も、東アジアをターゲットとして、積極的に、いろいろな国に出掛けて鹿児島のセールスをしております。 そのおかげで、多くのクルーズ船が寄港してくれるようになりました。 今後も数多く寄港していただき、鹿児島にたくさんの方が来られるように、海外へのプロモーションを含めた様々な観光施策を行っているところです。 その中で中国の方もよく鹿児島にお越しになるようになりました。その対応としては、やはり、それぞれのお店で買い物をされる時に案内をすることが、その都市のおもてなしになると思いますので、以前、大型クルーズ船が寄港した際には、街中に中国語の案内板を設置したり、中国語のできるボランティアを配置したりして、受け入れ体制を整えたこともございました。 また、平成22年は約8万人の外国の方に来ていただきました。 そのうちの半分は韓国で、約1割が中国の方でした。 ということで、韓国や中国からのお客様が多いですので、街中の主要な観光案内板については、21年度から22年度にかけて中国語、韓国語、英語、日本語の4ヶ国語に板面更新を行い、対策を講じているところです。	経済局	今後も、韓国・中国を始めとする東アジアからの観光客を誘致するために、観光プロモーション、トップセールス、誘致セールス等を継続的に実施していくとともに、市内の宿泊施設に対する外国語案内表示助成を実施するなど、受入体制の充実にも取り組んでまいります。
4	3年 女子学生	④ 4月に志学館大学が移転してきて、鹿児島市に大学が一つ増えたことについて、市長はどう思うか。 また、私たちに期待することは何かあるか。	④ 志学館大学が、鹿児島市に移転してきたことを大変嬉しく思っております。将来を担う若い方々が、鹿児島市で学び、学んだことを行動に移していただくことは、市政を預かるものとして、非常にありがたいと思っておりますし、財産だと思っております。 今、皆さん方の雇用情勢や生活環境を含めて、大変厳しい時代であると思います。私は団塊の世代で、学生が多く、競争が激しくて大変でしたが、現在の雇用環境や生活環境については、私が学生の頃と比較すると格段の差があると思います。 この現状に対して、皆さんは若い感性で積極的に挑戦し、行動していける気概を持ってらっしゃると思いますので、このことは、本市のまちづくりにとって大きな財産です。 ですから、皆さんには学校の勉強だけでなく、地域社会での活動やボランティアなどにも積極的に参加していただいて、地域の一員として何ができるか、何をしたらその地域が活性化できるかを考えて行動してほしいと思います。 鹿児島市全体が発展していくためには、地域の力がなければ、その目的は達成できないと思います。そのためには、皆さんが地域の一員として行動し、地域のことを自分のことのように考え、地域に住むいろんな年代の方たちとも交流をしていただいて、まちづくりの大きな力になってもらいたいと考えています。それが私が皆さんに期待をすることです。	企画財政局 市民局	現在、本市において策定に取り組んでいる、第五次総合計画の中で、「“結い”づくり」として、地域の課題を自ら発見・解決していくための「地域コミュニティ連携組織」の立ち上げを支援しながら、意識啓発や人づくり、活動支援の環境整備を行い、地域の特性を生かした協働によるコミュニティづくりを進めることとしています。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年10月26日（水）16：20～17：35
場所：志學館大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
5	4年 女子学生	⑤ 橋下知事が大阪を一つの都にしようとしているが、私は鹿児島も県と市を一つにするのもいいと思っている。市長はどう思うか。	⑤ 現在、国のあり方や地方のあり方について、大きな論点として、様々な検討がなされております。その中で大阪都構想というものも生まれてきております。 ところで、私どもの鹿児島市は基礎自治体として位置づけられております。今までは国が県を監督し、県が市を監督するという立場でしたが、現在は分権社会ということで、地方の現状に合わせて進めていくべきだという方向に、考え方が変わってきております。 同じ施設とか無駄なものは省いていかないといけないと思いますが、私は、一番身近な基礎自治体である市町村に権限や財源が集約されていくべきだと考えています。 今はまだ過渡期で、今後どうなっていくかわかりませんが、鹿児島の場合も鹿児島市だけではなくて、広域市町村圏ということで、日置市やいちき串木野市、始良市など周辺自治体と連携を図りながら、同じ施設をどのように活用していくかについて検討はしておりますが、市を県にとりか、県を市にとりかたことは今の段階では、今後十分論議をして結論を得ていくこととなります。 広域の行政ができる一括して管理することはできますが、教職員の異動の問題や県道、市道の問題など、地域の要望、要請はいろいろあるので、どのようにしたらいいかについては、一概には言えないところです。 ただ、私は住民に一番身近な基礎自治体が、力をつけるべきだと思います。	企画財政局	※市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年10月26日（水）16：20～17：35
場所：志学館大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
6	3年 男子学生	⑥ 地域産業に力を入れているということだったが、農業にはどのようなところに力を入れているのか。	<p>⑥ 鹿児島市は平成16年に1市5町で合併しました。合併してよかった面として、農林水産業の地域が広がったことが挙げられます。鹿児島市はこれまで、都市近郊農業ということで都市周辺での農業を重点的に行ってきましたが、合併によって、それぞれの地域で生産し、加工し、販売できるところが広がったと思っております。</p> <p>松元ならお茶、桜島なら大根やみかん、郡山は竹の子とか、そういういろんな農産物を生産する魅力が加わったと思いますが、その反面、後継者は少なくなっています。特にこれまで農業を専業とされていた方が、高齢になられて、後を継ぐ方が少なくなったということが、農業振興にとって大きな障害となっています。</p> <p>そういうことで、現在、農業の担い手の育成に取り組んでいます。</p> <p>もう一つは、農業が市民生活に直結していることを目で見、体験をして、知ってもらうために、農業公園というものを造っております。北部は都市農業センターがありますし、南部は喜入地区に、現在、観光農業公園というものを造っております。この中には鹿児島市で生産して、鹿児島市で加工した食材を使ったレストランや、市民農園を設けたりして、農業に対する意識を高め、興味を持っていただくきっかけとしたいと考えています。</p> <p>鹿児島県は農業立県でありますので、この1次産業の農業を充実して、鹿児島市の食糧自給率を高めたいと思っています。</p> <p>私も市長になった当初は家庭菜園をよくしていましたが、時間的に忙しくなってきたので、今は家内がやっていますが、季節ごとの野菜を植え、育て、収穫する喜びは何物にもかえられないことは十分認識しております。</p> <p>できれば、皆さんにも、各地域に遊休農地がたくさんありますので、それを活用して、農業の拠点にいただければと考えております。</p>	経済局	<p>農業の担い手の育成につきましては、認定農業者をはじめ新規就農者、女性農業者、農作業受託組織など多様な担い手を育成していく必要があります。特に、就農希望者に対しては、就農相談や技術研修、施設整備助成などを行っております。</p> <p>さらに農業青年クラブの活動に対する助成を行い、これからの時代を担う質の高い農業後継者の育成、確保を図っております。</p> <p>また、遊休農地バンクを通じ、幅広く情報提供を行い、遊休農地所有者と遊休農地利用希望者の結びつけや、遊休農地の復元経費に対する助成を行うことなどにより、農地の有効利用を促進しております。</p>

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年10月26日（水）16：20～17：35
場所：志學館大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
7	2年 男子学生	⑦ 鹿児島の高校生の約6割が県外に流出しているが、どのような対策をしているのか。 また、今後はどのような取り組みをしていくのか。	⑦ 高校生の流出が6割ということは大変頭の痛い話ですが、逆に皆さんが鹿児島市の大学に進学していただいたことに対して、大変感謝しております。実を言いますと、私も流出を致しましたが、また帰ってまいりました。 私は、鹿児島市は素晴らしい街だと思ひますし、人材を育成する環境は整っていると思ひます。4年制大学もありますし、短大や専門学校もあります。鹿児島市の対策として、今後は、このように環境が整っているということ、中学生や高校生に情報発信していかなければいけないと思ひております。 多くの皆さんが県外に流出してしまう理由の一つとして、企業の立地がなくて、雇用情勢が厳しいということもあると思ひますので、鹿児島で学んで、鹿児島で就職して、鹿児島で生活できるという環境整備に力を入れていかなくてはいけないと思ひております。 私は去年から、東京の大学と鹿児島大学の力を合わせてまちづくりを考えるとこの事業にも取り組んでいます。 鹿児島の人々が鹿児島の大学に進学するということはよくありますが、逆に言うと、東京や関西の方々に鹿児島を知っていただき、鹿児島大学の進学し、そのまま就職して残っていただくという対策も必要ではないかと思ひておりますので、今後、各大学との連携について、より一層力を入れていきたいと思ひております。	企画財政局 経済局 教育委員会	本市では、現在、ソフトウェア業やコールセンター等を中心とした都市型産業や製造業の誘致促進に努めているところで す。 18年度から22年度の過去5年間の業種別の立地件数は、情報関連企業11件、コールセンター5件、製造業4件、研究開発型企業2件の合計22件となっております。 今後におきましても、県とも連携を図りながら、企業立地を戦略的に推進し、雇用の創出に努めてまいります。 また、雇用対策として、経済団体や企業訪問による雇用枠拡大の要請や、就職希望の高校3年生を対象としたステップアップセミナーの開催、トライアル雇用支援金の支給、IT人材育成事業、ものづくり職人人材調査等事業などにより、雇用の創出等に努めているところでございます。（経済局） 市立の3高等学校においては、郷土鹿児島を愛する心を育む教育を推進するとともに、「確かな学力」を持ち個性あふれる生徒の育成に努めております。進学に当たっては、希望する大学等に進めるための進路指導に努めておりますが、残念ながら県内の希望大学等に進むことができず県外の学校を選ばざるを得ない生徒もおります。 また、就職に当たっては、職場の開拓・確保に努めるとともに、県内の企業の職場体験学習等を実施しており、多くの生徒が地元で就職し活躍しているところです。今後とも、全ての生徒が自己実現できるための学習指導に努めるとともに、県内大学等や企業の魅力・情報をさらに充実させた進路指導に努めたいと考えております。（教育委員会）

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年10月26日（水）16：20～17：35
場所：志学館大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
8	3年 女子学生	⑧ 観光客に対して運転手の接客マナーが悪いと、鹿児島島のイメージが悪くなってしまふので、鹿児島市とタクシー会社でマナーの向上等について取り組んでいることがあれば教えてほしい。	⑧ 私は、鹿児島島の大きな魅力の一つが「おもてなしの心」だと思っております。人をより多く呼び込むためには、鹿児島を訪れた多くの方々に素晴らしい印象を持ってもらって、それを口コミで多くの方に伝えてもらわなくてはなりません。 鹿児島島の魅力として、自然景観とか、温泉とか、英傑を多く輩出したとか、他の都市にはない魅力について、いろんなことを情報発信していますが、それ以前に「おもてなしの心」があるかないかが一番重要ではないかと思っております。 鹿児島島に降り立って、タクシーに乗ったり、バスに乗ったり電車に乗ったりされると思いますが、その接遇の良し悪しが、また来てもらえるかどうかを決める重要な分岐点になると思います。 そういった意味で、鹿児島県内の各自治体は接遇に対してお客様が十分満足できるようなものにしようということで、連携をとっておりますが、民間の方々にも要請をしております。 タクシー会社にはタクシー協会というのがありますが、協会で各事業所の責任者を呼んで、こういう接遇をしてくださいという要請をしております。また、バス会社にはバス協会がありますので、そういう団体の中で接遇の研修をしていただいております。 このことが十分になされることで、鹿児島島の「おもてなしの心」が大きな魅力になると思いますので、各協会にもお願いし、各自治体間でも連携していきたいと思っております。	経済局	現在、「おもてなし」の一環として、観光客が利用するタクシーにおいても、旬な観光情報を提供できるように、当該情報を掲載した「いまどき情報」を市内の各タクシー会社へ定期的（年4回）に送付しております。 今後も、関係機関と連携して、市民全体で「ようこそ鹿児島」へと心から“歓迎”する「ホスピタリティに満ちた鹿児島」の醸成に取り組んでまいりたいと思っております。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時：平成23年10月26日（水）16：20～17：35
場所：志学館大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
9	2年 男子学生	⑨ 鹿児島市内、市外両方含めて、地域住民の声を活かしたまちづくりについて、市長はどう考えているか。	⑨ 鹿児島市内では、地域を13地域に分けて、地域まちづくりワークショップというものを立ち上げています。これは、各地域でまちの魅力、形態が違うので、それらを踏まえて、まちの力を強めてほしい、地域の力でそのまちを活性化してもらいたいということで、立ち上げております。 また、市外においては、大きなエリアでは、県下の市長会というものがありますが、これは県下の19市の市長や副市長が集まって、それぞれの市の悩みとか地域の要望とかを共通の課題として検討しています。そしてまた、それよりも小さいエリアとしては、鹿児島市、始良市、霧島市、垂水市で湾奥の自治体として連携を図っています。 また、観光の面では、鹿児島市、霧島市、指宿市、南九州市の4市で観光の協議会を作っていますし、その他の広域連携として、日置市、いちき串木野市、始良市、三島村、十島村などの鹿児島市を取り巻く市村と共通議題を立ち上げて協議しています。 各自治体とも、それぞれ課題がありますので、それらを共通認識として、こういった解決方法があるかということをも十分論議する協議会や会議を設けて施策を推進しております。	総務局 企画財政局 市民局 経済局	本市では、市民が主体となって運営する「地域まちづくりワークショップ」の活動を支援することにより、地域での様々な課題への対応や、新たな地域資源の発掘による地域の活性化を図るとともに、それぞれのワークショップが地域プランの作成と実践に取り組むことで、市民主体の協働によるまちづくりを推進しているところです。
10	4年 女子学生	⑩ 私は、鹿児島市がよい方に発展するためには、青少年の育成が絶対に必要だと思っている。 そういった中で、市長は50年後のアジア交流をどうとらえているか。また、50年後、60年後の鹿児島市をよくしていくためには、市民のアイデンティティの形成が必要だと思うが、市長はどのような取り組みが必要だと思うか。	⑩ 私は、まちづくりを進める上で、50年後、100年後の長期的なスパンで考えることが大事だと思っております。50年後にどういう環境になっているかについては、想像もできませんが、鹿児島の特徴を十分に発揮しながら発展していくためには、中国、韓国、東南アジアを含めた東アジア圏での位置づけを、しっかり持っておくべきではないかと思っております。 鹿児島市はこれまで、南に開かれた交流拠点都市として発展してきました。鹿児島市を中心に円を書くと、東京、ソウル、上海はだいたい同じ距離になります。先ほど、新幹線で時間地図が大きく塗り替えられたと申し上げましたが、そういう交通体系が充実しますと、日本だけではなく、海外にもエリアを持ったまちづくりが必要だと思っております。 そういう体系を作るために、協働ということで、行政だけでなく市民の力でまちをどうしていくか、市民の力でどのように鹿児島市の魅力作りをしていくかということを考えて、国際性豊かなまち、国際性豊かな市民を育成していかなければいけないと思っております。 人材育成ということで、青少年の育成についてもお話をされましたが、明治維新を成し遂げたのは、薩摩人でしたので、そういった気概を持った素晴らしい人材は、鹿児島にはたくさんおられると思います。 そのまちづくりの大きな原動力となっていくのが皆様方です。われわれは、皆様方が作っていくまちで健やかに過ごしていきたいと思っております。ぜひ皆様方には頑張ってくださいと思います。	企画財政局	※市長回答のとおり